

下湯ダムで洪水調節実施

10月15日、台風18号が青森県に接近し、県内各地で大雨となりました。下湯ダム集水域も大雨に見舞われ、今年度5回目となる洪水調節を行いました。

今年度5度目の洪水調節 ～過去10年で最多～

下湯ダムは今回の洪水調節で今年度5度目となり、過去10年間で最も多く洪水調節を行いました。

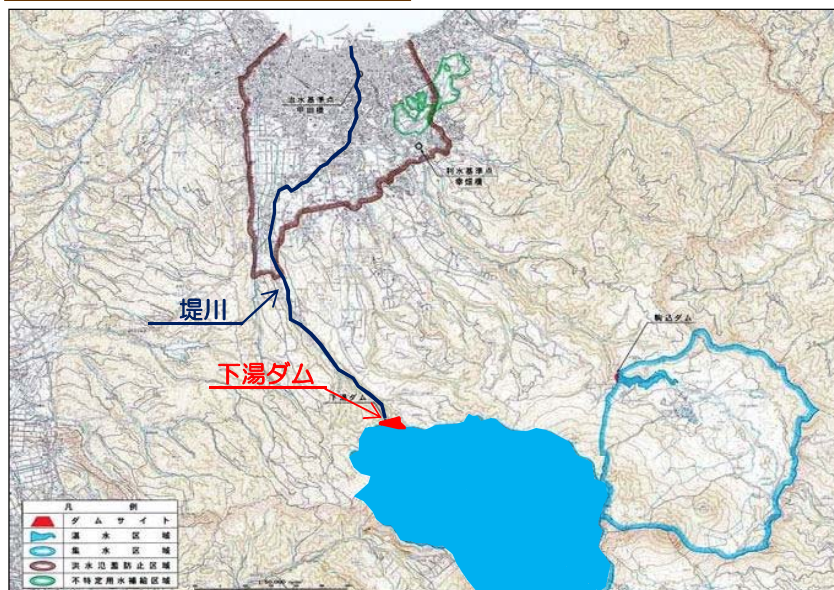
右の表は、過去10年間の洪水調節のうち、回数が多かった年度と回数が少なかった年度について表したものです。これを見ると、今年度は遅い時期に初めの洪水調節がなされ、10月で早くも5回の洪水調節を実施していることがわかります。

平成23年度のように、9月から11月の間にまとまった雨が降ったケースがあります。今年は特に9月以降の台風の発生数が多く、気象庁の発表では10月22日現在過去10年間で最も多い発生数とのことです。今後大雨に注意が必要です。

過去10年（平成16年～平成25年）の下湯ダム洪水調節回数

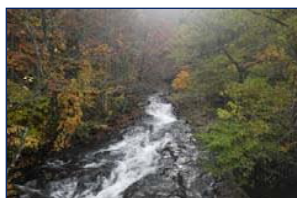
- ・平成25年度（5月30日～10月16日）：5回
- ・平成23年度（9月18日～11月27日）：5回
- ・平成16年度（5月4日～12月5日）：4回
- ：
- ・平成17年度（9月14日）：1回
- ・平成22年度（7月10日）：1回
- ・平成20年度：0回

下湯ダムの洪水調節機能



ところで、下湯ダムの水はどこからやってくるのでしょうか。

左の地図のうち、下部分の水色着色部が下湯ダムの集水域です（右の水色枠は駒込ダム完成時の集水域）。下湯ダムは、八甲田ロープウェイのある方向から流れる水域と、酸ヶ湯のある方向から流れる水域から、それぞれ雪解け水や雨水をためています。



←
八甲田ロープウェイ方面から流れ出る寒水沢

→
酸ヶ湯温泉方面から撮影

ダム湖（下湯平成湖）のいま ～紅葉真っ盛り～

現在の下湯ダムは、秋の紅葉シーズン真っ盛り。今年の写真撮影時（左写真）は曇り空でしたが、晴れた日（右写真）は空の青と紅葉の赤・黄、そして針葉樹の緑が下湯平成湖の水面に映り幻想的な景観を形成します。天気の良い日は、下湯平成湖を散策してみてもいいかもしれません。



浅虫ダム周辺はこれから紅葉のピークを迎えます。11月上旬から中旬にかけて見頃になりそうなので、温泉に来るついでに、紅葉を眺めながら浅虫ダム湖（ほたる湖）を散策するのもいいですね。

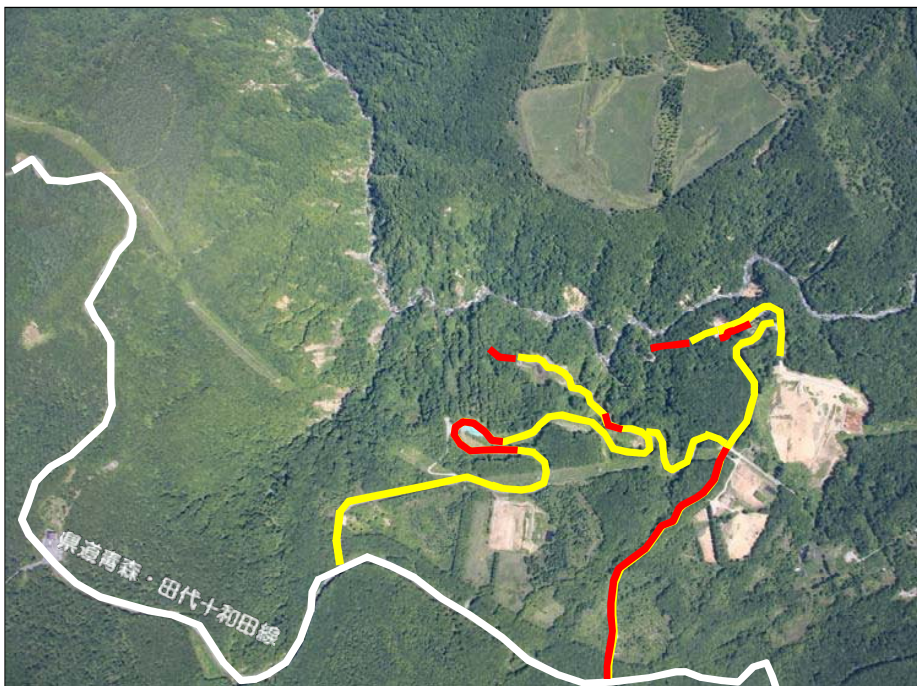
駒込ダム工事用道路工事進捗状況

10月。例年現場に雪が降るタイムリミット（11月）まであと1ヶ月を切りました。八甲田山（大岳）には積雪があり、駒込ダム建設予定地に積雪が観測されるのも時間の問題です。



八甲田山は井戸岳と赤倉岳の山頂付近が雪化粧（上写真）。現場にはまだ雪が降っていませんが、朝夕の寒さが一段と厳しくなってきました。

後藤伍長の銅像も、工事用道路から見えるようになりました（下写真）。長い冬の時季が刻一刻と迫っています。



※現在施工中の工事（赤色着色部）

- ・1号工事用道路（その48・49・50・51）工事
- ・4号工事用道路（その9・10・11・12）工事
- ・駒込川河川維持工事

4号工事用道路橋梁施工状況

4号橋の施工ももう佳境。9月は床版の設置まででしたが、今月はコンクリートを打設してコンクリート床版が完成しました。排水構造物等の付属物工もほぼ完成し、残りは軽作業と後片付け。約3カ月の施工期間（製作期間を除く）で約40mの橋が完成です。



駒込ダム建設予定地は毎年約5mの積雪があるので、今年度はこれ以上の延伸工事はありません。

来年度の4号工事用道路延伸工事は、雪が解ける5～6月頃から始める予定です。

1号工事用道路法面施工状況



第76号で紹介したグラウンドアンカー工は完了し、現在はその下の法面を保護する工事を行っています。

施工箇所下部の法面は、現場吹付法枠によって保護されます。工事用道路の他の箇所にも同様の法枠があり、

現場内の法面保護の実績があります。

今年度の工事施工状況の紹介はこれでおしまい。次回は工事箇所のピフォーアフターを紹介します。

駒込川河床への道 ～モノレール～

第76号で紹介した索道は、機械の搬入を行うものでした。それでは、作業する人は高低差200mもの険しい斜面を毎日どのように上り下りしているのでしょうか。



答えは、モノレール。上の写真は、河床から約200m上部まで設置した3人掛け用のモノレールです。どちらを向いてもいいように、前後両側にハンドルが付いています。



高低差
約15m
傾斜角
60°！

こんな斜面でも大丈夫！

駒込ダム工事用道路ビフォーアフター ～H25版～

平成25年度に施工していた駒込ダム関連工事は、すべて完成しました。途中雪が70cmほど積もり、完成検査時に除雪を行った工事箇所もありました。

これから駒込ダム建設予定地周辺は長い冬のシーズンになり、降り積もる雪で道路が閉ざされます。周辺では例年5m以上の雪が積もるため、来年度の工事着工は5月以降になる予定です。

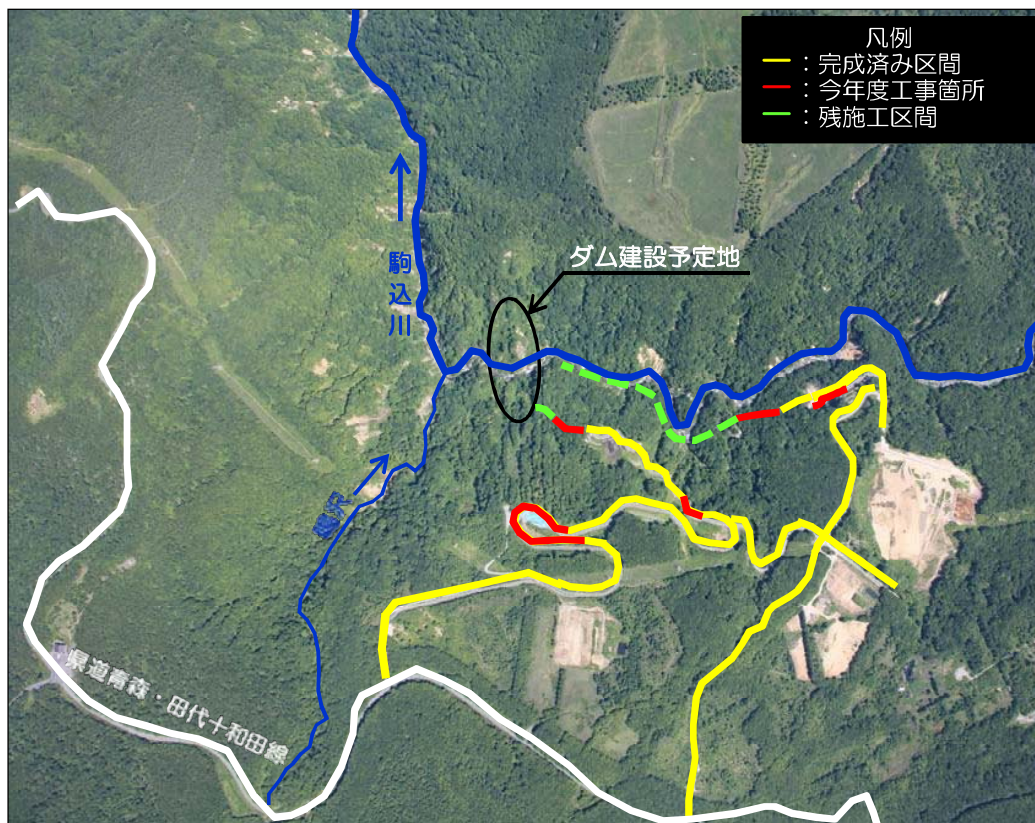
右写真は駒込ダム建設予定地周辺の航空写真です。

駒込ダム建設予定地は、駒込川と鳴沢が合流する地点から少し上流で、1号工事用道路はダムの天端、4号工事用道路は駒込川の河床付近に向かって延伸しています（2号・3号工事用道路は完成済み）。

このうち、今年度までの工事によって、1号工事用道路は残り165m、4号工事用道路は残り620mになりました。

来年度は、今年度に引き続き1号・4号工事用道路の延伸工事を行います。

今回は、今年度工事箇所のうち、1号工事用道路2件、4号工事用道路4件の工事箇所のビフォーアフターを紹介します。



1号工事用道路

1号工事用道路は、道路延伸工事1件、法面保護工事2件、道路改良工事2件、計5件の工事を行いました。このうち、道路延伸工事と法面保護工事のビフォーアフターを紹介します。

工事用道路延伸工事

1号工事用道路はダムの天端に向かう工事用道路で、残り165mで完成します。

今年度は、新たに道路を延伸するために掘削してできた法面を保護する工事を行いました。

法面は高いところで約20mの高さがあり、最上段と2段目の上段は足場を設置して受圧板を施工しました。

来年度は、今年度保護した法面の下部に道路を新設する予定です。

before



- ・掘削したままだと、風雨によって法面が崩壊してしまう恐れあり
- ・法面崩壊により、道路延伸工事や今後の工程に大きな影響を及ぼす恐れあり

after

- ・最上段と2段目上部に受圧板、2段目下部と最下段に現場吹付法枠を施工し、掘削により形成された法面を保護した
- ・法面を保護したことにより、来年度以降に施工予定である道路延伸工事の安全性が確保される



法面保護工事

駒込ダム工事用道路の法面は、雪解けや大雨の際に、まれに表土の崩壊が発生します。

左側の写真は5月末に現場調査を行った際の写真です。表土が剥がれ落ち、残雪の上に土砂が積もっているのが分かります。

このままでは大雨時に斜面崩壊を起こす可能性があったので、法枠工によって保護しました（右側写真）。



b
e
f
o
r
e

- ・表土が剥げ落ちていた
- ・このままでは斜面崩壊の恐れ
- ・道路の通行にも影響あり



a
f
t
e
r

- ・現場吹付法枠で法面を保護
- ・枠内植生基材で夏には草が繁茂
- ・道路の安全な通行を確保

4号工事用道路

4号工事用道路は、道路延伸工事3件、法面保護工事2件、計5件の工事を行いました。このうち、道路延伸工事と法面保護工事のビフォーアフターを紹介します。

工事用道路延伸工事(橋梁架設)

4号工事用道路4号橋は、今年度の工事を終了しました。左側の写真のように、もともと急斜面の箇所にも右側の写真のような橋ができました。

駒込ダム建設予定現場周辺は11月から6月まで雪により施工が困難になります。また、4号工事用道路は写真のような急傾斜で複雑な地形が多いため、施工も一苦労です。

- ・工期が短く7月からの現場作業となった
※工場製作工を除く
- ・地形が複雑なため、近くの現場では掘削した際に想定していなかった地質が出現し、工程に大きな影響を及ぼした

b
e
f
o
r
e



- ・杭基礎による橋梁架設
- ・50mの施工区間を約3カ月で施工
※工場製作期間を除く
- ・地形の改変を最小限に抑えて施工
(アスファルト舗装・起点側アバットメントは次年度施工予定)

a
f
t
e
r



法面保護工事

1号工事用道路の表土崩壊と同様、4号工事用道路も崩壊の危険がある斜面がありました。

今年度、その斜面の保護工事を行い、落石の危険性が高い箇所を法枠工で保護しました。

現場は迂回路がなく、万が一落石等斜面の崩壊があった場合、4号工事用道路延伸工事の工程に大きな影響を及ぼすところでしたが、無事に保護することができました。

駒込ダム建設予定地周辺は急斜面の箇所が多いので、今後も法面の保護と道路延伸工事を併せて施工していく必要があります。



b
e
f
o
r
e

- ・表土が剥げ、今にも崩壊しそう
- ・オーバーハングしている箇所あり
- ・水が流れた箇所から削られていた
- ・雪解け後にいつも石が落ちていた
- ・雪解け時、法尻の舗装に石が転がっていた
- ・万が一崩壊した場合、工程に大きな影響



- ・現場吹付法枠で法面を保護
- ・モルタル吹付でオーバーハング部を保護
- ・暗渠パイプで「水の道」を形成
- ・道路の安全な通行を確保
- ・落石の抑止効果
- ・枠内植生基材により周辺の環境に配慮

a
f
t
e
r



※フランス語で「ダム新聞」という意味です

駒込ダム紹介掲示板を更新しました！

駒込ダム建設所と駒込川流域4箇所の計5箇所に、駒込ダムを紹介した掲示板があるのをご存知ですか？
これは、堤川河川改良事業を地域の皆さんに知ってもらうため、「駒込ダムは何故必要か」「駒込ダムの大きさ」「現在の進捗状況」等を、図面や写真、ポンチ絵を使って分かりやすく説明しているものです。
今回、今まで掲示していた情報が古くなったので、掲示内容を一新しました。



掲示板は、下流から「八甲橋」「松桜橋」「南桜川橋」「駒込橋」の、いずれも左岸側にあります。また、駒込ダム建設所前の掲示板には、本紙も併せて掲示しています。

今後も駒込ダムの新たな情報を毎年更新していく予定ですので、付近を通行の際は是非読んでみて下さい。



八甲橋の青森高校艇庫前



松桜橋の桜川側（桜川団地そば）



駒込ダム建設所前には本紙も掲載！



南桜川橋の南桜川団地そば



駒込橋の筒井側

揭示板更新作業

掲示板の更新は、建設所の職員数人で行いました。初の更新作業だったため、最初の1枚は想定していた以上に時間がかかりましたが、残りの掲示板は持ち前のチームワークで難なく更新することができました。

本紙と同様、今後も分かりやすい・見やすい掲示板を心掛けます。



寸法合わせをする駒込ダム3人衆



設置作業をするK技能技師とN技師

下湯・浅虫のいま ～冬支度～

下湯ダム・浅虫ダムでは、長い冬のための支度が行われました。

下湯ダムは例年3m以上の積雪を記録し、浅虫ダムはそれに満たないものの、除雪しないところでは1m以上の積雪があります。そのため、積雪による構造物等の損壊を防ぐために毎年冬支度が行われています。

下湯ダムの冬支度

下湯ダムでは、屋外トイレ2棟を閉鎖しました。また、ダム天端及びあやめ公園連絡橋の転落防止柵（チェーン）を取り外しました。



今月のトイレ（左写真）と4月時点の積雪（右写真）



水辺公園駐車場のトイレ



チェーン取り外し

トイレを閉鎖する理由は、現地が冬期閉鎖区間であるのも然ることながら、下湯ダムの積雪深そのものが物語ってくれます。

上中央写真は、今年の4月に撮影したものです。右側に雪が積もっていますが、トイレの屋根より高く積もっていることが分かります（赤点線参照）。これは、今月撮影した上左写真の、竹竿の上端とちょうど同じくらいになります。こんなに積もってしまえば、勿論トイレは利用できませんね。

転落防止柵のチェーンは、張り出したままにしておくと融雪期に構造物自体が根こそぎ引っ張られて破損してしまう恐れがあるため、冬期間は毎年撤去しています。チェーンを取り外すと大変危険に感じられますが、ダム天端は通年関係者以外立ち入り禁止、あやめ公園連絡橋周辺は冬期閉鎖区間なので、一般の方に影響を及ぼすことはありません。

浅虫ダムの冬支度

浅虫ダムも、管理所隣の屋外トイレを閉鎖しました。毎年12月1日から翌年3月31日まで閉鎖しています。また、下湯ダムでは行われていない樹木の「雪囲い」が至る所で見られます。北国の風物詩である雪囲いを見ると、今年も長い冬がやって来たなぁと感じられます。

今回は、浅虫ダムで見られる雪囲いの一部を紹介します。



雪国の冬支度～雪囲い～

積雪の多い地方では、樹木を風雪や寒さから守るため、「雪囲い」を行います。広義では「家屋・建物・庭木を守ること」を雪囲いと言いますが、今回は樹木に限定して紹介します。



【パネルでの雪対策】

板を使った雪囲いは、雪の多い地域によく見られる光景です。

左写真はその一例。支柱と板を格子状に組み合わせて合掌造りにし、樹木を守っています。



【パイプ補強した雪囲い】

左の合掌造りの雪囲いとは違い、こちらは支柱をパイプにして頑丈にしています。また、横板がなく屋根を設けています。サツキやツツジなどの低木によく利用される方法です。



【まとめて縛る「しぼり」】

細い木一本だけだと折れてしまいましたが、数本をまとめて縛るとその分折れにくくなります。戦国時代の武将・毛利元就が遺した「三矢の訓」みたいです。

この方法は、細い木が密集している場合に効果的です。



【添竹を立てしぼり方法】

樹木一本一本に「しぼり」を施す方法もあります。こちらは樹木に竹や板を添え、それに巻きつけて枝折れを防いでいます。

他に、むしろを使って雪囲いする方法もあります。

謹賀新年

年頭にあたり謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

日頃より地域で進めるダム行政にご理解とご協力を頂き改めてお礼申し上げます。おかげさまでこのダム新聞「barrage journal」も平成19年6月の初回発行から今回で80回目を数えることとなりました。今後もダムの管理や建設に係る諸情報を皆様に分かりやすく伝えて参りたいと思っております。

さて、堤川水系の総合的な治水対策の一環として建設中の「駒込ダム」は、本年も引き続きダム本体工事の着手までに必要な諸調査を進めるとともに、昨年一部着工した橋梁区間を含む工事用道路の進捗を鋭意図ることとしております。

また、昨年は青森県においても災害の多い年でございましたが、これらの災害に適確に対応するため、供用中である「下湯ダム」並びに「浅虫ダム」につきましても、施設の効率的な維持管理を進めるとともに適切な運用に努めることとしております。

最後に、地域の皆様の安全・安心を確保するため、昨年同様職員一丸となって業務に取り組んで参りますので本年も宜しくお願い申し上げます。



駒込ダム積雪状況

青森市では、今月上旬まで例年よりかなり少なかった積雪も、中旬に降った雪でほぼ平年並みとなりました。

駒込ダム建設所周辺はどうでしょう。今シーズンも現地の積雪状況を調査します。

観測場所は昨年度と同様、気象観測装置設置箇所です（詳細は弊紙第55号参照）。昨年12月末に観測した時は160cmだったのに対し、今月9日の測定値は250cm、24日に測った時には360cmでした。昨年12月の積雪は平年並みでしたが、1月24日の積雪は豪雪だった昨年の同時期とほぼ変わらない積雪深でした。

八甲田の冬はこれからです。



12月26日の積雪深
(160 cm)



1月9日の積雪深
(250 cm)



1月24日の積雪深
(360 cm)



手本を見せるK技能技師（写真奥）と
初スキ어의N技師（写真手前）

【N技師スキー初体験】

今回の積雪調査で3名の職員が現地に赴きましたが、そのうちN技師は初めてのスキー体験でした。本人曰く、「斜面の滑降が怖かったが、とても貴重な体験をさせてもらいました。」とのこと。

今後も、冬期間の管理方法や春の工事着工時期を検討するために現場調査を行います。

工事用道路の積雪深

今シーズンから工事用道路の脇にテープを貼り、道路に何m雪が積もったのか分かるようにしました。春先の工事を発注する際、現場の積雪状況を確認し早期に工事着工できるかどうか判断しやすくするためです。

右の写真は、道路の積雪状況とテープとの比較です。黄色のテープは道路から2mの高さ、オレンジ色のテープは3mの高さに貼っています。道路に積もった雪は道路脇より低く、1月9日現在約1mの積雪であることが確認できます。

道路から
高さ3m地点

道路から
高さ2m地点

道路（黒線内側）



雨量局の閉局

昨年11月某日。下湯ダムの雨量観測地点である、酸ヶ湯雨量局と寒水沢雨量局を閉局しました。これは、冬期間は雨量局周辺に雨が降らない（代わりに雪が沢山降ります）ため、県内の他の雨量局も同様に閉局している箇所があります。閉局した時には雪はそれほどありませんでしたが、1月現在どのようになっているのか、調査しました。



【酸ヶ湯雨量局（写真中央）】

気象庁の酸ヶ湯観測所の隣に、酸ヶ湯雨量局があります。閉局時は雪が全くありませんでしたが、現在は写真のとおり。雪に遮られて近くに行くことすら困難です。



【寒水沢雨量局】

八甲田ロープウェイの近くに、寒水沢雨量局があります。雨量局に向かう道路は雪で埋もれ、スキーやスノーシューがないと到達できなくなっていました。

下湯ダム・浅虫ダムのいま ～静寂と賑わい～

下湯ダムは人里離れた山中に、浅虫ダムは浅虫温泉の近くにあるため、それぞれ違う景観が見られます。どちらにも魅力的な部分があり、甲乙つけがたいものです。今回は、冬ならではの下湯・浅虫両ダムの景観を紹介します。

静寂（下湯ダム）

あたり一面雪化粧をした晴れの下湯ダムは、静寂そのものの。聞こえるのは風の音くらいです。まれに鳥のさえずりが聞こえてきますが、無風でないと聞こえません。また、曇りや雪の日が多く、風雪により管理所近くの木々すら目視できない日もあります。

写真撮影時は久しぶりに晴れ間が見え、うっすらと八甲田連峰の田茂范岳が見えました。

快晴の日は、「空の青」と「結氷して雪が積もったダム湖の白」が見事なコントラストを織り成し、さらに下湯ダムと周辺の山々がダイナミックさを演出します。



賑わい（浅虫ダム・浅虫温泉）



【浅虫ダムの冬景色】（上写真）

ダム湖を周回すると、鳥のさえずりがあちらこちらから聞こえます。

【ゆ～さ浅虫】（右写真）

観光客がお土産や特産品を買っていました。浅虫温泉駅前では足湯を堪能する人も。

浅虫ダムも、ダム湖のほとんどが結氷しています。第1・第2貯砂ダム周辺や支川の流入口で、結氷していない部分がまばらにある程度です。写真撮影時は雪がちらついていましたが、周辺住民の方がダム湖の周りを散策していたり、観光客の方がカメラを持ちダム湖を撮影したりしていました。また、第2貯砂ダム付近では、木の実を食べる鳥たちの姿が見られ、雪の上には「セッケイカワゲラ」の姿も見られました。歩いていると鳥のさえずりが所々で聞こえ、下湯ダムと違い「賑わい」を見せていました。



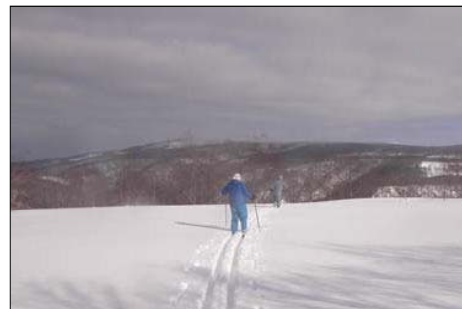
浅虫ダム下流域にある浅虫温泉では、さらに賑わいを見せていました。温泉の湯気があちらこちらから立ち込めており、多くの観光客が温泉巡りをしたり、「ゆ～さ浅虫」で観光情報を眺めたりしていました。

駒込ダム積雪状況

今月は13年ぶりに首都圏で大雪警報が発令され、東京都心では20年ぶりに積雪が20cmを超えました。また、関東地方では大雪により孤立する集落が続出するなど、全国各地で大雪による災害や交通障害が発生しました。

県では、例年降雪量の少ない三八上北にまとまった雪が降り、農作物を中心に被害を受けました。

各地で深刻な被害を出した今回の大雪ですが、昨年・一昨年と大雪の続いた駒込ダム建設予定地ではどの程度雪が降ったのでしょうか。今月も現地調査に行きました。

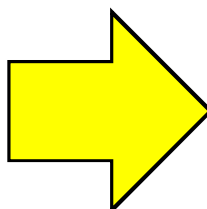


2月24日。県道青森田代十和田線の銅像茶屋周辺では、積雪により道路標識が目線とほぼ同じになっている箇所がありました。駒込ダム1号工事用道路入口周辺に比較的積雪が少ない箇所があったので、調査隊はここから観測地点へ向かいました。

今回の調査の結果、観測地点には390cmの雪が積もっていました。これは、1月の積雪深+30cmと、想定していたより少ない積雪でした。



1月24日の積雪深
(360 cm)

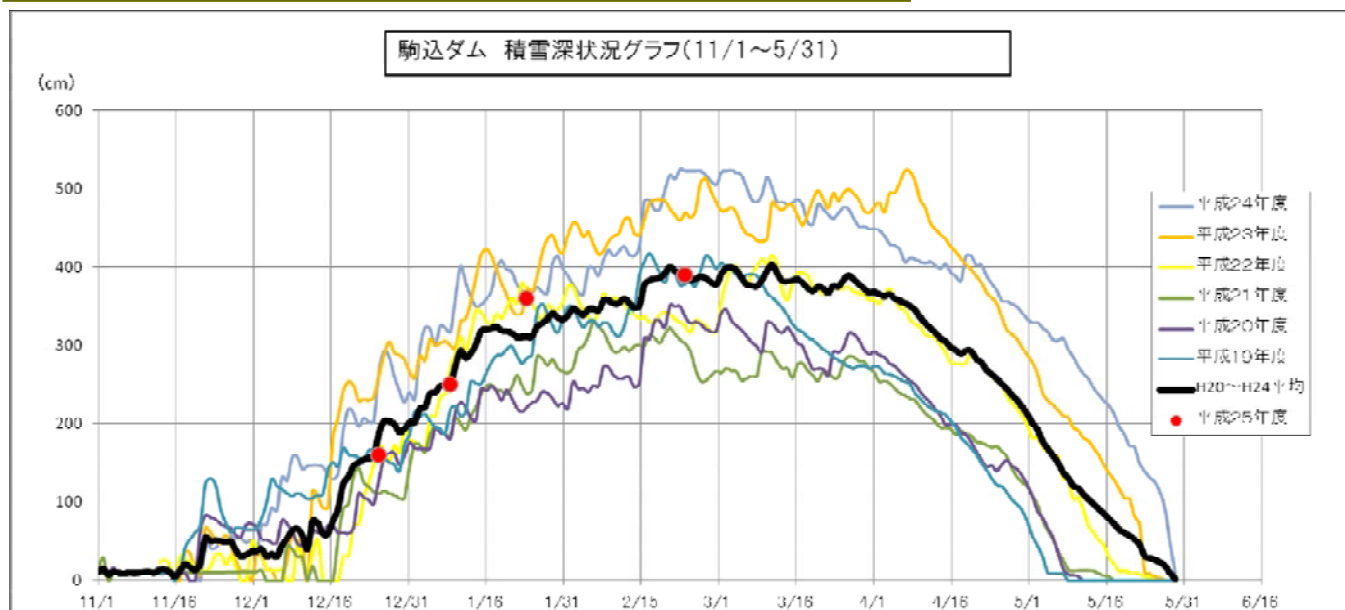


1ヶ月で
プラス30 cm



2月24日の積雪深
(390 cm)

今後の駒込ダムの積雪予想 ～過去の統計と今年度の推移から～



上のグラフは、過去5年と今年度の積雪深状況を折れ線・プロットで表したものです。

今年度は赤プロットで推移しており、平成19年度のグラフの推移と類似しています。3月上旬に降雪の予報が出ているものの、気温は上昇傾向にあるので、平成19年度の推移同様、今後積雪深は減少していくものと考えられます。

事例発表会にて

2月5日。東青地域県民局地域整備部大会議室にて、「中堅・若手職員事例発表会」が開催されました。その中で、駒込ダム建設所の事例をN技師が発表しました。



【発表するN技師（写真中央）】

2事例目として発表したN技師。パワーポイントを駆使したプレゼンは、「他の発表者よりも分かりやすかった（某総括主幹）」「質問が出ないほど完ぺきなものだった（某主幹）」と評判でした。

●工事用道路施工の難しさ

1. 急傾斜地かつ複雑な地質



・急傾斜地で施工性×
（片押し施工・逆巻き工法）
・掘削すると風化した岩が出現
⇒所定の支持力がない地点も---



・転石（中硬岩）が多い箇所も散見
・数mで地質が大幅に変わる

【説明資料の一部】

駒込ダム工事用道路建設現場について説明したスライドの一部です。施工の難しさを現地の写真を使って分かりやすく説明しました。

今月の下湯ダム

結氷しない場所

下湯ダムダム湖（下湯平成湖）では、一箇所だけ冬でも結氷しない場所があります。

それは、取水口周辺（写真中央）です。ここは通年発電や河川維持のために水を流しています。この部分が結氷しないよう、取水口に融雪装置（モーターとスクリューで水を攪拌するタイプ）を設置して、周辺の雪や氷を溶かしています。



冬でも行う防災ヘリ訓練

冬の静かな下湯ダム周辺で、バタバタと音をたてているものがあります。県の防災ヘリ「しらかみ」です。

「しらかみ」は、1年を通じて下湯ダム周辺で訓練しており、冬場は雪上での訓練となります。右の写真は訓練中の「しらかみ」を撮影したものです。ヘリの下では数人の隊員が救助準備の訓練をしていました。



今月の浅虫ダム

そろそろ融雪

2月下旬は暖かい日が続き、浅虫ダム周辺は積雪が減りました。ダム湖（ほたる湖）の周りの道路は除雪されており、付近を散歩している人の足取りも軽やかでした。

暖くなったことで貯砂ダムに積もっていた雪が徐々に解け、弛んでいるのが確認できます（写真参照）。斜面でこのような現象が見られると、雪崩のサインです。近づかないことが賢明です。



スノーシューの足あと

ダム湖の周りを調査していると、とても大きな足跡が並んでいるのを発見しました。新種の動物の足跡？ビッグフット？ではありません。スノーシューやカンジキを履いた際にできる足跡です。

浅虫温泉周辺では、「スノーハイキング」という里山をスノーシューで散策するイベントが行われています。今回発見した足跡は、イベント参加者の足跡でした。



駒込ダム積雪状況

3月に入ると例年暖かい陽気が続くものですが、県内は今月上旬からの低温・降雪の影響でほぼ全域で平年比100%以上の積雪となっています。

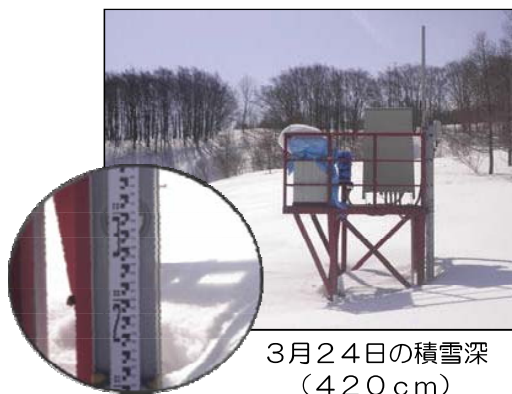
2月は3年ぶりに平年並みに推移していた駒込ダム建設予定地の積雪深でしたが、また昨年・一昨年と変わらない積雪深になったのでしょうか。今月も現場調査を行いました。

3月は、10日と24日に現場調査に行きました。10日の調査は現場へ向かう途中にトラブルが発生し、現場まで到達できませんでした。

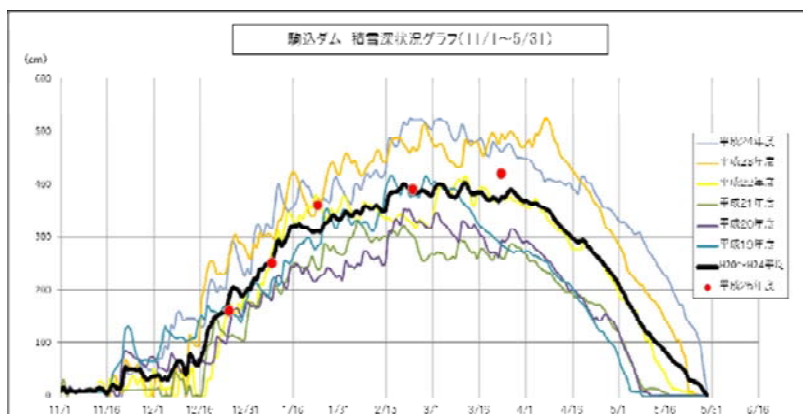
リベンジとなった24日、現場は快晴。雪もスキーで滑りやすく絶好の調査日和となりました。

調査の結果、観測地点には420cmの雪が積もっていました。これは、2月の積雪深+30cmです。今月上旬と下旬にまとまった雪が降ったことで、調査日の積雪は予想以上に積もっていました。

今後の推移として、気象庁の1カ月予報によると「4月は気温の高い日が多い見込み」であることから、雪解けが進み平成22年度のグラフのような積雪深の経路を辿るのではないかと予想されます。



3月24日の積雪深
(420cm)



今月の下湯ダム・浅虫ダム

晴天時の八甲田と道路の雪崩（下湯ダム）

下湯ダムは久しぶりに雲ひとつない晴天となりました。管理所からは八甲田が見え、絵はがきになるような景観を形成していました。

晴天になり気温が上がると、気をつけ

なければならないのは「雪崩（なだれ）」です。本紙第58号で雪崩についてお知らせしましたが、管理所までの道路では数ヶ所雪崩の危険のある箇所があります。下の写真は3月24日に現場調査した際の雪崩が発生した現場の様子です。大きな雪の塊が道路に落下しているのが確認できます。雪解けの時期は特に注意が必要です。



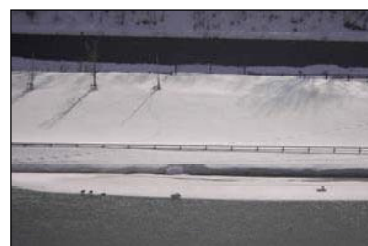
早くも洪水のおそれ（浅虫ダム）



今月の浅虫ダム周辺は、昨年・一昨年より積雪量が少なく、道路は車の通行が可能になっていました。また、ダム湖の結氷箇所も昨年に比べ少なく、たくさんの鳥

が羽を休めていました。木々のつぼみもふくらみ始め、春がすぐそこまで来ているのが実感できます。

同時に、この時期は洪水に注意が必要な時期でもあります。浅虫ダムは下旬からの暖かい陽気により、雪解けが進んでいます。これにより、ダム湖への雪解け水の流入量が増加傾向にあり、今後気温が上昇し雨が降れば、洪水の恐れがあります。今後の気象情報には十分ご注意ください。



ダムフォトコンテスト応募開始

一般財団法人ダム技術センターでは、第29回ダムフォトコンテストの作品を募集しています。第28回コンテストでは300点を超える応募があったようです。

応募締め切りは平成26年9月30日（当日消印有効）ですので、ダム周辺で写真を撮影した際には応募してみたいかがでしょう。

応募方法や詳細な情報は下記URLまで。

http://www.jdec.or.jp/OOtop/O3info/photo_bin/photo_con_bin.html



二十四節季七十二候、言えますか？ ～春ver.～

テレビの天気予報でよく、「今日は二十四節季のひとつ、〇〇です。」という話題が上がります。1年を24分割し、それぞれの季節がどのような時候を表すものとなっています。また、節季間をさらに3分割（初候・次候・末候）し、短文で表したものを「七十二候」といい、二十四節季より生活感にあふれています。

二十四節季は年によって日付が若干前後しますが、節季が逆転することはありません。

今回は「春」に分類される六節季十八候を紹介します。

○立春：今年の立春は2月4日。立春よりその前日の節分の方が有名ですね。

- ・初候「東風解凍（はるかぜこおりをとく）」：春風が氷を溶かし始める頃。
- ・次候「黄鶯睨睨（おうこうけんかんす）」：留鳥であるウグイスの、恋のシーズンです。
- ・末候「魚上氷（うおこおりをはいする）」：氷が割れ魚が顔を出す頃。



○雨水：今年の雨水は2月19日。青森ではまだまだ雪の降る季節ですが、雪解けが始まる季節でもあります。

- ・初候「土脉潤起（つちのしょううるおいおこる）」：土が徐々に湿り気を帯び始める頃。
- ・次候「霞始縫（かすみはじめてたなびく）」：霞がたなびく時期。春らしい景観ですね。
- ・末候「草木萌動（そうもくめばえいする）」：ひなまつりの頃。植物が芽を出し始めます。



○啓蟄：今年の啓蟄は3月6日。本紙第58号で、同時期に浅虫ダムにて虫が顔を出していることを紹介しています。

- ・初候「蟄虫啓戸（すごもりのむしとをひらく）」：冬眠していた虫が起きる頃。
- ・次候「桃始笑（もちはじめてさく）」：青森では桃の開花はもっと遅く、桜とほぼ同じ頃です。
- ・末候「菜虫化蝶（なむしちょうとなる）」：青虫が蝶に羽化する頃。



○春分：今年の春分は3月21日。彼岸の中日ということもあり、この日にお墓やお寺参りに行く人も多いのでは。

- ・初候「雀始巢（すずめはじめてすくう）」：スズメが巣を構える頃。この頃からだんだん昼が長くなります。
- ・次候「桜始開（さくらはじめてひらく）」：この頃の開花は関西～関東の広範囲。青森では例年GW前頃の開花です。
- ・末候「雷乃発声（かみなりすなわちこえをはっす）」：春雷と呼ばれ、同時にもたらされる雷が農作物の天敵です。

○清明：今年の清明は4月5日。「清明」とは、万物が清らかでいきいきとしたようすのこと。

- ・初候「玄鳥至（げんちょうきたる）」：「玄（くろい）鳥」は「つばめ」のこと。夏鳥のツバメが飛来する頃。
- ・次候「鴻雁北（こうがんかえる）」：ガンは冬鳥。ガンが北のシベリアへ帰る頃。
- ・末候「虹始見（にじはじめてあらわる）」：雪から雨に代わる頃。雪がやんでも虹は出ませんね。



○穀雨：今年の穀雨は4月20日。「雨降りて百穀を潤す」の意。

- ・初候「葭始生（あしはじめてしょうす）」：水辺にアシが生え始める頃。
- ・次候「霜止出苗（しもやみてなえいする）」：苗は「稲苗」のこと。霜は大敵です。
- ・末候「牡丹華（ぼたんはなさく）」：八十八夜はこの頃になります。



○立夏：これから先は次回のお楽しみ☆

おわりに

3年36号分に渡ってお送りした、「T技師編集による「barrage journal」は、今号をもってひとまずバトンタッチといたします。次号からは、新たな編集長による「barrage journal」が始まります。駒込ダム・下湯ダム・浅虫ダムの情報を、今まで以上に分かりやすく、かつ見やすく皆さんにお伝えして参りますので、今後とも愛読して頂けたら幸いです。

それでは、定番となりましたが、「あの著名人」の句を拝借して今号の結びとしたいと思います。

3年間、ありがとうございました。

さらば読者よ、命あらばまた他日。元気で行こう。絶望するな。では、失敬。（『小説 津軽』（太宰治著）より）